

高齢者施設における呼吸器系感染症対策の現状と課題

柳 宇¹⁾

1) 病院・高齢者施設環境分科会代表

本分科会ではこれまで、病院および高齢者施設の環境に関する文献調査およびアンケート調査を実施してきた。高齢者施設においては、多くの集団感染事例が報告されており、その背景には高齢者特有の身体的特性と、施設の環境的要因が関係していると考えられる。本シンポジウムでは、以下の5つのテーマについて論じる。

1. 構造設備に関する法規制とプランニング上の課題 本間義規（国立保健医療科学院）

【概要】高齢者施設、特に特別養護老人ホームなどの入居型施設では、身体機能や免疫力が低下した高齢者を対象としているため、集団感染の予防や災害時の避難といった観点から、特別な対応が求められる。保健衛生の視点から、これらの施設に求められる空調・換気設備の要件を関連法規とあわせて整理し、プランニング上の課題について検討する。

2. 空調・換気設備、室内空気環境の現状 開原典子（国立保健医療科学院）

【概要】高齢者施設の室内空気環境は、窓開け換気の励行などにより変動が大きく、特に冬期は加湿不足が顕著である。また、建築物衛生法における特定建築物に該当しないことから、空調・換気設備の定期的な維持管理や保健所等による指導が十分ではない。今後の感染症対策に資する室内環境制御の在り方を、実例を交えて考察する。

3. 呼吸器系感染症感染事例 柳 宇（工学院大学）

【概要】インフルエンザ、ノロウイルス、新型コロナウイルスに関する国内外の集団感染事例を紹介し、平常時と感染流行期の双方に対応可能な包括的な環境対策の必要性を論じる。

4. 呼吸器感染症に備える空調換気対策 林基哉（北海道大学）

【概要】不安定な室内環境は感染リスクを高める要因となる。エアロゾル拡散を防ぐためには、空気の流れを制御することが不可欠である。病院と共に課題として、高齢者施設においても空調換気の設計基準と維持管理体制の整備が喫緊の課題となっている。

5. 災害時対応体制と職員の対応意識の現状と課題 劉 虹（東京理科大学）

【概要】感染症対策と災害対策の両立が求められる中、地震や水害など複合災害に備える体制の整備が重要である。特に、自力避難が困難な高齢者を多く抱える施設では、職員の災害対応意識が被害の軽減に直結する。本発表では、複数施設での職員意識調査および防災体制の実態調査に基づき、現状と今後の課題を整理する。